

テレビ信州がDX_子の受信機導入 地デジの空帯域を有効活用 独自のナローキャスト放送



ナローキャストを発信している。現在は静止画のデータ

スト放送を利用した信州ハム（写真中央）のPRブース（写真中央）の縦型ディスプレイにナローキャストの映像を表示）
TSBはサイネージ用送信になるが、TSBの用途でのナローキャスト利用を模索。放送電波でコッセンツを送るため災害時に強いうえ、地デジ対応テレビも利用できる使い勝手の良さがある。今回、4月5日からの善光寺の御開帳に合わせ、長野駅前野村証券の免許を取得した。対象エリアは長野県内。29日までトライアルを実施。会場では初の企業顧客となる信州ハム（長野県上田市）のPRコンテンツをナローキャストで送信。専用受信機にコンテナを保存し、HDMIし、「空帯域を有効活用したい」と展望を述べた。

キャスト放送」のトライアルサービスを実施している。昨年4月からは長野市役所の協力を得て、市からの情報発信に試験的にナローキャストを利用。市役所ロビーに地デジ対応テレビとサイネージ用ディスプレイを設置し、I端子からサイネージ用ディスプレイに接続して映像を流している。

テレビ信州（TSB、長野市）はDXアンテナの専用受信機を使い、地上デジタル放送の空帯域を利用してコンテンツを送信する独自の「ナローキャスト」放送を実施して、13年11月にはナローキャスト放送の案内など市からの告知映像を流している。